

【6】学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定の基準

1. 学習成果の評価方針（アセスメント・ポリシー）

本学は、学生の学習成果の評価に関し、その質的な基準、評価の実施方法を定める方針としてのアセスメント・ポリシーを定め、各学科・コースのエビデンスを全学的な評価に反映しています。まず相応する人材充足の指標となるアドミッション・ポリシーから、学修の進捗を測るカリキュラム・ポリシー、学修の保証を検証するディプロマ・ポリシーまでを本学教育の指標とし、その達成の上に、学生自身が社会での役割と生きる姿勢を表すキャリア・ポリシーを立てる、という諸ポリシーの全体的な構成意義を念頭にしています。さらに、大学（機関）レベル、学科・コース（教育課程）レベル、科目レベルと視点を交えて検証するという評価体系を構築しています。

	入学前・入学直後 アドミッション・ポリシーを満たす人材かどうかの検証	在学中 カリキュラム・ポリシーに則って学修が進められているかの検証	卒業時 ディプロマ・ポリシーを満たす人材になったかどうかの検証	卒業後 キャリア・ポリシーを満たす人材になったかどうかの検証
大学（機関） レベル	<ul style="list-style-type: none"> 入学試験 調査書等の記載内容 面接評価 志願理由 	<ul style="list-style-type: none"> GPA 取得単位数 外部プログラム（検定等）の取得 休学率 退学率 学生アンケート 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業時満足度調査 卒業率 就職率 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業生アンケート（満足度） 就職先アンケート（定着率） 卒業後3年サポート
学科・コース （教育課程） レベル	<ul style="list-style-type: none"> 入学試験 調査書等の記載内容 面接評価 志願理由 入学前教育 	<ul style="list-style-type: none"> GPA 取得単位数 外部プログラム（検定等）の取得 資格・免許の取得 休学率 退学率 学生アンケート 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業時満足度調査 卒業率 資格・免許取得率 就職率 専門分野就職率 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業後3年サポート
科目 レベル	<ul style="list-style-type: none"> 入学試験 	<ul style="list-style-type: none"> 成績評価（単位取得状況） 授業評価アンケート 学生アンケート 	<ul style="list-style-type: none"> 単位取得率 	

i) 大学（機関）レベルのアセスメント・ポリシー

学生の志望進路に対する就職率、卒業時に実施する満足度調査アンケートなどから、学生の学習成果の達成状況を検証する。

ii) 学科・コース（教育課程）レベルのアセスメント・ポリシー

各学科・コースにおける資格・免許取得状況、卒業要件達成状況、単位取得状況、GPAなどから、教育過程全体を通じた学習成果の達成状況を検証する。

iii) 科目レベルのアセスメント・ポリシー

シラバスに提示された成績評価に基づく評価や、学生の授業評価アンケートなどから、科目ごとの学習成果の達成状況を検証する。

2. 成績評価基準

- (1) 単位の認定は、単位認定試験等により行い、その成績が100点満点の60点以上を合格としています。ただし、成績評価は、日常の小テストおよび小論文等を考慮の上、評価することができるものとしています。
- (2) 成績評価は、S、A、B、CおよびFの5段階で表記し、S、A、B、Cを合格、Fを不合格としています。

成績評価基準				
評定 (評価)			G P	判定
S	90点～100点	秀	4.0	合格 (単位認定)
A	80点～89点	優	3.0	
B	70点～79点	良	2.0	
C	60点～69点	可	1.0	
F	59点以下	不可	0	不合格 (単位認定なし)
受験資格なし	受験資格がない場合	—	0	不合格 (単位認定なし)
未受験	受験していない場合	—	0	
無効	不正行為等	—	0	

※GPA制度について

本学では、学修の状況および成果を示す指標としてGPAを算出することにより、学生の学習意欲の向上、適切な修学指導に利用しています。(資格取得に関する単位認定、既修得単位の認定、単位互換制度はGPA算出の対象外となります。)

◆GPAの算出方法
$$GPA = \frac{(\text{履修登録した各授業科目の単位数} \times \text{各授業科目のGP}) \text{の合計}}{\text{履修登録した各授業科目の単位数}}$$

- (3) 単位認定試験は、筆記試験、レポート、実技試験および制作物等とし、原則として、毎学期末に担当教員が指定する日時に、指定された方法で行います。授業科目の単位認定試験を受験するためには、授業回数の3分の2以上の出席を満たす必要があります。
- (4) 指定された試験日または提出日に、下記の事由により、受験またはレポートが提出できない場合は、指定された期日までに申請を行い、教授会の承認を得て、追試験を受けることができます。ただし、追試験の追試験、または追試験の再試験を受けることはできません。
- ①病気による場合 (診断書添付)
 - ②本学卒業後に就職または他校に入学することを目的として受験する場合 (証明書になる書類添付)

- ③競技選手として国または各都道府県の代表となり得た者が、国際試合・全国大会またはそれに準ずる大会に出場する場合（出場母体による証明書添付）
- ④学生の親族（3親等以内）・姻族（2親等以内）の葬儀に参列する場合（会葬礼状添付）
- ⑤風雪等の気象条件または車両事故等により交通ストップまたは延着した場合（遅延証明書添付）

※証明するための書類添付の必要があります。

- (5) 単位認定試験において筆記試験またはレポート試験が課せられており、当該試験において59点以下となった場合に限り、指定された期日までに申請を行い、教授会の承認を得て、再試験を受けることができます（ただし、再試験の再試験、または再試験の追試験を受けることはできません）。実験・実習・実技科目の再試験は、原則として認めません。なお、この場合の成績は、単位修得が可能と考えられる場合は、60点とします。

- (6) 追試験、再試験を受験する場合は、次の受験料を納入しなければなりません。

ただし、再試験は5科目以内とします。

追試験・再試験受験料・・・1科目につき1,000円

3. 修学指導

学期毎の修得単位数および成績評価（GPA）を基に、担任を中心として修学指導を行います。

以下に定める面談・指導により、以後の学修改善に向けた意欲が確認できれば、引き続き修学することが可能です。一方で、「面談の呼び出しに応じない」、「面談したが学修改善に向けた意欲が見られない」といった場合は、退学勧告の対象となることがあります。

(1) 修学指導・修学的意思確認

- ①学期終了時のGPAが1.00未満の学生は、担任が面談の上、修学的意思を確認し、適切な修学指導を行います。
- ②GPAが2学期連続して1.00未満の学生に対しては、指導による改善が見られない場合には、修学的意思がないものとして、退学勧告を行う場合があります。

(2) 進級・卒業見込み基準

- ①1年次終了時の修得単位数が20単位未満かつGPAが1.00未満の学生。
 - ②2年次前期終了時の修得単位数が38単位未満かつGPAが1.00未満の学生。
- ※上記単位数に該当する学生は卒業見込み証明書の発行はできません。

(3) 参考資料（本学の学生調査より）

学生の学修時間について

あなたはふつうの1週間の中で、次の活動にどれくらい時間を費やしましたか。

2021年度	授業を受けた時間	授業に関する勉強 (予習・復習・宿題)	授業に関係ない (自主的な)学習	アルバイトや仕事
0時間	1%	11%	46%	22%
1～5時間	8%	66%	42%	13%
6～10時間	19%	12%	5%	16%
11～15時間	15%	5%	2%	22%
16～20時間	17%	3%	2%	11%
21～25時間	17%	0%	1%	5%
26～30時間	14%	1%	1%	3%
30時間以上	11%	2%	2%	6%
合計	100%	100%	100%	100%

2020年度	授業を受けた時間	授業に関する勉強 (予習・復習・宿題)	授業に関係ない (自主的な)学習	アルバイトや仕事
0時間	2%	15%	53%	24%
1～5時間	11%	54%	42%	19%
6～10時間	14%	16%	3%	18%
11～15時間	9%	7%	1%	17%
16～20時間	16%	3%	1%	7%
21～25時間	22%	2%	0%	3%
26～30時間	14%	1%	0%	2%
30時間以上	12%	3%	1%	10%
合計	100%	100%	100%	100%

2019年度	授業を受けた時間	授業に関する勉強 (予習・復習・宿題)	授業に関係ない (自主的な)学習	アルバイトや仕事
0時間	1%	25%	56%	10%
1～5時間	8%	54%	34%	15%
6～10時間	17%	12%	4%	17%
11～15時間	17%	6%	2%	23%
16～20時間	19%	2%	2%	11%
21～25時間	14%	1%	1%	9%
26～30時間	15%	0%	0%	6%
30時間以上	9%	1%	1%	9%
合計	100%	100%	100%	100%

4. 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

池坊短期大学の教育理念

本学は、華道を基軸とし、長い歴史と文化の視座をもって「日本文化の哲理を理解し美的情操を身につけた人材を育成する」ことを目的に、「和と美」を建学の精神としている。

「和と美」とは、調和あるものは美しく現れ、美しさは調和的であるということの意味する。人間は、自然に生まれ、自然とともにありながら、また自然を作り変える文化的営為（対話）なしに生きることのない存在である。その文化的営為と精神性が、関わるものすべてにおいて、いかに調和的でありうるのか。「いけばな」は、この問いに、日本文化固有の繊細さと奥深さをもって応えてきた。

すなわち、手折られる花にあらゆるいのちへの祈りを込めて「いける」心と行為は、自然のいのちを文化のいのちとして新たに造形してゆくことである。それは人間がその生命を生き、生活、環境、文化を通して形成されるとともに、また、生活、環境、文化を構築していく姿勢そのものである。

本学が建学の精神に据えた、この「いけばな」に基づく日本文化固有の調和的・美的精神世界、「和と美」は、多元的かつ多様なものの共存・共生、より大きく深い対話、協調が求められる現代の日本社会、国際社会において、未来の創造へ寄与し貢献する根源的な価値である。日本文化固有の歴史と伝統を護りながら、同時にこの根源的な価値の普遍性を体現し、啓発しうる人材を育成する。

池坊短期大学は、教育理念のもと、その教育課程において学則に基づき定める科目を履修し、所定の単位を修得するとともに以下の要件を備えた学生に対して、卒業を認定し学位を授与する。

全学ディプロマ・ポリシー

①[知識・技能・理解]

日常の人間活動を形成する「生命」、「生活」、「文化」および「環境」について多面的に理解できる。

②[思考力・判断力・表現力]

文化的営為と精神性について、論理的に思考し、自ら設定した汎用的課題に対して、修得した専門的知識と技能を活かすための考察ができる。

③[探求心・主体性・多様性・協働・社会性]

「自然」、「人」、「事象」等に対して、自己との関係性を深く洞察し、役割を自覚し、社会を構成する一員としての高い倫理観と良好なコミュニケーションによって自律、協調して主体的、かつ連携的に行動する創造的能力と実践的能力を身に付けることができる。

教養教育科目ディプロマ・ポリシー

①[知識・技能・理解]

多様な社会とその交流に関する歴史的、文化的、社会的基礎知識を身につけることができる。

②[思考力・判断力・表現力]

複数の知識を組み合わせ、論理的に思考し、協調的に互いの意見を傾聴し、平易かつ明解に伝えることができる。

③[探求心・主体性・多様性・協働・社会性]

社会で求められる力が何かを常に意識して、自らの学びを広げ深め、自らの学びを、言語、視覚的情報、所作を通して世界に発信することができる。

学科・コースのディプロマ・ポリシー

本学は、わが国伝統文化の延長上に新しい文化を創造することを目指して教学の発展に努めており、「学としての華道」の確立と研究および教育の促進、日本文化の知的・実践的教育の普及を目的としています。

この責務をはたすために文化芸術学科、環境文化学科、幼児保育学科の3学科を設置し、それぞれの学科で次のような目的を掲げています。

(1) 文化芸術学科

文化芸術学科では、人間が過去から現代までに創り出した形あるもの、およびその創作をもたらす精神活動や生活活動そのものを「文化」、その創造的な営為をつみあげる基盤を文化環境と捉え、人間活動としての「文化」と様々な価値を付され、形成される芸術を学び、それを基礎とした新たな創造力の涵養を目的とする。加えて、共生の精神のもとに、多様な文化に対する寛容と共働の精神を育み、自己の習得した知と技法を通じて、表現・発信できる人材を育成する。

文化芸術学科のディプロマ・ポリシー

①[知識・技能・理解]

建学の精神である「和と美」に基づく、他者理解とさらにそこから生まれる文化・環境についての豊かな知識・教養を有している。

人間相互の理解、多様な文化に対する寛容と共働の精神を姿勢として体現するために適切な方法を選択し、実行することができる。

②[思考力・判断力・表現力]

多様な文化理解のうえにたち、自らが設定する課題解決のための思考、判断およびそれを具体的に表現するための考察ができる。

③[探求心・主体性・多様性・協働・社会性]

人間活動としての文化、芸術等の理解について、積極的に関心を持ち取り組むことができる。

○いけばな・花デザインコース

①[知識・技能・理解]

共生の精神にもとづき、「多様な文化」を理解することができる。

いけばなおよびフラワーアートの技術を学び、新たな創作をすることができる。

②[思考力・判断力・表現力]

いけばなおよびフラワー産業の専門知識を、自らの考えでまとめることができる。

③[探求心・主体性・多様性・協働・社会性]

いけばなを学ぶことの意義を感じとり、多様化する社会へいけばなを発信することができる。

○ブライダルプランナーコース

①[知識・技能・理解]

共生の精神にもとづき、「多様な文化」を理解することができる。

ブライダル産業に携わる上で基礎となる知識と技術を有し、業務を遂行することができる。

②[思考力・判断力・表現力]

修得した知識・技術を用いて、様々な手法で自身の考えを発信することができる。

③[探求心・主体性・多様性・協働・社会性]

ブライダル産業に関して常に興味関心を持ち、自ら調べ考えることができる。また、自身の考えに基づき責任を持って行動することができる。

○医療クラーコース

①[知識・技能・理解]

共生の精神にもとづき、「多様な文化」を理解することができる。

医療業界に関して常に関心を持ち、問題提起ができる。

②[思考力・判断力・表現力]

医療事務に係る専門的な知識と技術を習得し、様々な手段で他者に伝えることができる。

③[探求心・主体性・多様性・協働・社会性]

医療業界で主体的に、かつ積極的に活躍できる。

(2) 環境文化学科

環境文化学科では、「環境」を自然、社会、人文などにわたるものと捉え、くらしを取り巻く「環境」に現れる美のあり方を探求し、それを踏まえて新しい生活文化の創造に資する能力の開発を目的とする。これに応じて、現代の様々な「環境」に関わる基礎的な専門知識と、自らの「環境」を生み出す高度な技術の習得によって、自己を取り巻くすべてのものと調和し、そこに様々な美を見出し、創り上げる力をもって、社会に貢献できる人材を育成する。

環境文化学科のディプロマ・ポリシー

①[知識・技能・理解]

生活環境に関する幅広い知識を有し、活用のための創意工夫ができる。

生活環境分野において、自らが設定する資格取得等の目標達成のために必要となる専門知識や実践的な技能等を身に付け活かすことができる。

②[思考力・判断力・表現力]

生活文化、生活環境における現状を理解し、課題に対して多面的かつ総合的に思考することを通して、状況に応じた判断ができる。

③[探求心・主体性・多様性・協働・社会性]

くらしを取り巻く環境に現れる美と、新たに創造される生活文化に必要なとされる知識、技能の修得のために主体的に取り組むことができる。

○製菓クリエイトコース

①[知識・技能・理解]

環境や文化に対する教養を身につけ、状況に応じた対応ができる。

製菓に関する専門的な技術を修得し、様々な手段で他者に伝えることができる。

②[思考力・判断力・表現力]

製菓業界の現状を多面的に捉え、物事を判断することができる。

③[探求心・主体性・多様性・協働・社会性]

製菓に関する幅広い知識を持ち、活用することができる。

○トータルビューティーコース

①[知識・技能・理解]

環境や文化に対する教養を身につけ、状況に応じた対応ができる。

美容に関する専門的な技術を修得し、様々な手段で他者に伝えることができる。

②[思考力・判断力・表現力]

美容業界の現状を多面的に捉え、物事を判断することができる。

③[探求心・主体性・多様性・協働・社会性]

美容に関する幅広い知識を持ち、活用することができる。

○国際経営情報コース

① [知識・技能・理解]

共生の精神にもとづき、「多様な文化」を理解することができる。

日本の伝統文化を理解し、日本語・英語による日常生活や仕事に必要なコミュニケーション・適切なプレゼンテーションができる。また、ICTに関する多様な知識やスキルを身につけることで、社会や企業で必要とされる情報収集・発信ができる。

② [思考力・判断力・表現力]

情報収集・分析力やコミュニケーション力を駆使し、生起する課題についての的確に判断し、自ら積極的に行動することができる。

③ [探求心・主体性・多様性・協働・社会性]

国内外の社会・経済活動に関心を持ち、主体的に課題を解決することができる。また、チームの中心となって、課題に取り組むことができる。

(3) 幼児保育学科

幼児保育学科では、建学の精神である「和と美」は、人間活動の本質である「対話（コミ

コミュニケーション)、共生」の精神性を包含すると捉え、「子どもの命を守る」ことを実践できる人材の養成を目的とする。対象を知り、また自らを知ることで相互の差異を認め合い、支え高め合うことでさらなる和と美を生み出すことができる。この精神を基軸に、伝統文化の創造的伝承、人材形成の基盤の確立を援助・指導、さらには家庭・地域との連携を図ることができる、時代が要請する保育および幼児教育の専門職を養成する。

幼児保育学科のディプロマ・ポリシー

①[知識・技能・理解]

保育、幼児教育を担うための知識・技能を身につけ、現場に応じて柔軟に対応し活用することができる。

②[思考力・判断力・表現力]

保育、幼児教育の現状を理解し、子どもの豊かな発達を保障するために、専門的見地から多面的かつ総合的に思考することができる。

③[探求心・主体性・多様性・協働・社会性]

保育・幼児教育を担う人間として、子どもの命を尊重し、その責任の重さを深く認識して取り組むことができる。

5. 卒業・免許・資格の要件

(2022年度入学生の例)

(1) 卒業に必要な単位数は、いずれの学科も62単位以上とします。本学で授与する学位は短期大学士とし、卒業した学科による専攻分野の名称は次のとおりです。

文化芸術学科 短期大学士（文化芸術）、環境文化学科 短期大学士（環境文化）

幼児保育学科 短期大学士（幼児保育学）

各学科・コースで設定された単位数を充足するには、次に示す科目を履修しなければなりません。

○文化芸術学科 卒業要件

コース名	教養教育科目			専門教育科目				総合計 単位数
	必修科目	選択科目	計	必修 科目	選択 必修科目	選択 科目	計	
いけばな・ 花デザイン	11単位	7単位 以上	18単位 以上	15単位	4単位 以上	19単位 以上	38単位 以上	62単位 以上
					※23単位以上			
プライダル プランナー	11単位	7単位 以上	18単位 以上	14単位	4単位 以上	20単位 以上	38単位 以上	62単位 以上
					※24単位以上			
医療クラーク	11単位	7単位 以上	18単位 以上	33単位	4単位 以上	1単位 以上	38単位 以上	62単位 以上

○環境文化学科 卒業要件

コース名	教養教育科目			専門教育科目				総合計 単位数
	必修科目	選択科目	計	必修 科目	選択 必修科目	選択 科目	計	
製菓クリエイト	11単位	7単位 以上	18単位 以上	26単位	4単位 以上	10単位 以上	40単位 以上	62単位 以上
					※14単位以上			
トータル ビューティ	11単位	7単位 以上	18単位 以上	12単位	4単位 以上	単位 制限なし	16単位 以上	62単位 以上
国際経営情報	11単位	7単位 以上	18単位 以上	4単位	8単位 以上	30単位 以上	42単位 以上	62単位 以上

○幼児保育学科 卒業要件

学科名	教養教育科目			専門教育科目			総合計 単位数
	必修科目	選択科目	計	必修科目	選択科目	計	
幼児保育学科	6単位	8単位 以上	14単位 以上	24単位	24単位 以上	48単位 以上	62単位 以上

○環境文化学科 卒業要件+資格要件

コース名	教養教育科目			専門教育科目				総合計 単位数
	必修科目	選択科目	計	必修 科目	選択 必修科目	選択 科目	計	
製菓クリエイト 卒業要件+ 製菓衛生師受験資格	11単位	7単位 以上	18単位 以上	26単位	4単位 以上	23単位 以上	53単位 以上	71単位 以上

○幼児保育学科 卒業要件+資格要件

資格種別	教養教育科目			専門教育科目			総合計 単位数
	必修科目	選択科目	計	必修科目	選択科目	計	
卒業要件+ 幼稚園教諭二種免許	14単位	—	14単位 以上	51単位	—	51単位 以上	65単位 以上
卒業要件+ 保育士登録資格	14単位	—	14単位 以上	59単位	9単位以上 ※選択必修	68単位 以上	82単位 以上
卒業要件+ 幼稚園教諭二種免許+ 保育士登録資格	14単位	—	14単位 以上	70単位	4単位以上 ※選択必修	74単位 以上	88単位 以上

(2) 免許・資格の要件について

①華道家元池坊免許状

免許状	修得科目	対象学科・コース
入門、初伝	いけばなと現代生活Ⅰ	全学共通
中伝	いけばなと現代生活Ⅱ	全学共通
皆伝、華掌	いけばなと現代生活Ⅲ	全学共通
脇教授三級（准華匡）	いけばなと現代生活Ⅳ	全学共通
脇教授二級（准華監）	いけばなと現代生活Ⅰ～Ⅳ、 立花基礎、立花Ⅰ・Ⅱ	いけばな・花デザイン

②学校華道教員適任証書

全学共通	脇教授三級（准華匡）	脇教授三級（准華匡）の華道 免許状を取得し、かつ左記の 華道関連科目4科目より4 単位以上必要
文化芸術学科 環境文化学科	気づきと思考力、比較文化論、 いけばなの歴史、和と美の日本文化	
幼児保育学科	気づきと思考力、比較文化論、 環境・表現研究A（いけばな）、 環境・表現研究B（いけばな）	

③茶道許状

・表千家茶道

許状	修得科目
入門	茶の湯と伝統文化Ⅰ（表千家茶道）
習事	茶の湯と伝統文化Ⅱ（表千家茶道）
飾物	茶の湯と伝統文化Ⅲ・Ⅳ（表千家茶道）

・裏千家茶道

許状	修得科目
入門、小習、茶箱点	茶の湯と伝統文化Ⅰ・Ⅱ（裏千家茶道）
茶通箱	茶の湯と伝統文化Ⅲ（裏千家茶道）
唐物	茶の湯と伝統文化Ⅳ（裏千家茶道）

④単位修得により受験・申請できる資格

対象	資格名	単位修得が必要な科目
製菓クリエイト	製菓衛生師（国家資格）	教科課程表を参照
幼児保育	幼稚園教諭二種免許	教科課程表を参照
	保育士登録資格	

⑤科目履修により受験できる資格

対象	資格名	履修が必要な科目
いけばな・花デザイン	3級フラワー装飾技能士（国家資格）	フラワー装飾実習
ブライダルプランナー	B I A 認定アソシエイトブライダルコーディネーター	セレモニーマナー ウェディングプランナー概論 I ウェディングプランナー概論 II
	フォーマルスペシャリスト検定準2級	フォーマルウェア概論
	パーソナルカラーコンサルタント3級	ブライダルカラーコーディネートA
	ブライダルフラワーコーディネーター検定	ブライダル装花
製菓クリエイト	パティスリーラッピング	パティスリーラッピング
トータルビューティ	アロマコーディネーターライセンス	アロマセラピー

⑥授業で取得をサポートする資格

対象	資格名
ブライダルプランナー	3級ブライダルコーディネート技能検定（国家資格） ブライダルフラワーコーディネーター検定 ホテル実務技能認定試験
医療クラーク	医師事務作業補助技能認定試験 医療事務技能審査試験・医科 診療報酬請求事務能力認定試験・医科
製菓クリエイト	菓子製造技能士2級（国家資格）
トータルビューティ	J N E C ネイリスト技能検定3級 J N A ジェルネイル技能検定初級 サービス接客検定
国際経営情報	T O E I C Listening&Reading Test 6 0 0 点 日商簿記検定3級 京都・観光文化検定（京都検定）3級